
トロント留学体験記

谷川 聖

Tanz Centre for Research in Neurodegenerative Diseases

私は2023年2月よりカナダ・トロント大学のTanz Centre for Research in Neurodegenerative DiseasesでResearch fellowをさせていただいております。細胞科学研究財団から育成助成をいただき、ここまで研究生生活を継続することができました。

トロントはカナダで最も大きい都市で、多くの人種が共存する多様性に富む都市です。交通の便もよくストリートカー（いわゆる市電）や地下鉄など車がなくても生活ができています。アジアスーパーも沢山あり、日本食が簡単に手に入ることや、比較的バスタブのついたコンドが多いことなど、日本人が留学するには良い環境のように思います。英語が母国語ではない人が沢山いるので、街では多種多様な言葉が聞こえてきますが、私のように英語が苦手な人にも理解があり助かっています。気候は北海道と似ており、雪が少ない分暮らしやすいです。治安は比較的良好で、現在家族4人で暮らしておりますが、子どもを小学校へ送ったり、地元のスケート教室にいったりなど、今のところは穏やかに暮らすことができています。物価の高さはアメリカの主要都市よりは幾分マシかと思われませんがそれでも高く、円安に加え移民の増加でコンドの値段が急騰していることから金銭的には大変でした。医療費は無料で、定期ワクチン、検診などのほか、子どもが頭を打って救急に一晩泊まったりなどありましたが、いずれも無料で対応していただきました。



研究室メンバー（私は左から6番目）



おそらく唯一のカナダグルメPoutine

Tanz Centre for Research in Neurodegenerative DiseasesはUniversity of Torontoの研究施設の1つで、神経変性疾患を専門とする研究室が複数在籍しています。その中で私の所属するKovacs labは神経病理を専門としており、古典的な病理組織学的解析から、凍結脳検体を用いたシングル核解析や空間トランスクリプトーム解析、タンパク質のクライオEM解析など最新の研究設備を用いた発展的な研究も行っています。私は脳解剖の当番のほか、主に患者の解剖脳からの細胞培養法の確立、さらにシングルセル解析システムの立ち上げ、バイオインフォマティクス解析など基礎的な技術を習得し、テーマとしては進行性核上性麻痺患者のミクログリアのサブタイプ分類や機能解析を行ってきました。これまで経験したことが無いことばかりで手探りで進めていく研究は厳しいですが、とても有意義な経験をさせていただいております。リサーチグラントの獲得や学会賞をいただくこともでき、現在論文をまとめるために奮闘しております。

最後に、留学を支援していただいた細胞科学研究財団の皆様にご心より感謝申し上げます。また、ご推薦いただいた北海道大学腫瘍病理学教室の田中伸哉教授にこの場をお借りして感謝申し上げます。この経験を活かして帰国後も神経変性疾患の病態解明に向けて尽力していきたいと思っております。



トロントアイランドからみたトロントの景色